

幼保連携型認定こども園教育・保育要領に基づいた下記のこどもたちの姿になることを見据えて 創意工夫した働きかけができたか？

- 5：たいへんよくできた
- 4：よくできた
- 3：できた
- 2：ややできなかった
- 1：できなかった

ほんび

結果 上記項目の内、代表的な事例についての具体的なエピソード等

(1) 心身の健康に関する領域【健康】

保育教諭等や友達と触れ合い、安定感をもって行動する	5
いろいろな遊びの中で十分に体を動かす	5
進んで戸外で遊ぶ	5
様々な活動に楽しみ、楽しんで取り組む	5
保育教諭等や友達と食べることを楽しみ、食べ物への興味や関心をもつ	4
健康な生活のリズムを身に付ける	4
身の回りを清潔にし、衣類の着脱、食事、排泄などの生活に必要な活動を自分でする	4
とねの会こども園における生活の仕方を知り、自分たちで生活の場を整えながら見過しをもって行動する	3
自分の健康に関心をもち、病気の予防などに必要な活動を盛んで行う	3
危険な場所、危険な遊び方、災害時などの行動の仕方が分かり、安全に気を付けて行動する	4

年度当初は、水分補給や衣服の調節について保育教諭の声かけで行う姿が見られたが、保育教諭や友だちとの関わりの中で気づきを得ながら、次第に自ら考えて行動ができるようになってきた。戸外遊びの前後や気温の変化に応じて水分補給をしたり衣服の調節をしたりするなど、生活に必要な行動を自分で判断し健康に過ごそうとする姿が見られた。

(2) 人との関わりに関する領域【人間関係】

保育教諭等や友達と共に過ごすことの意味を味わう	5
自分で考え、自分で行動する	4
自分でできることは自分でする	4
いろいろな遊びを楽しみながら物事をやり遂げようとする気持ちをもつ	4
友達と積極的に関わりながら喜びや楽しみを共感し合う	4
自分の思ったことを相手に伝え、相手の思っていることに気付く	3
友達よきになつて、一緒に活動する楽しさを味わう	4
友達と楽しく活動する中で、共通の目的を見だし、工夫したり、協力したりなどする	4
よいことや悪いことがあることに気付く、考えながら行動する	4
友達との関わりを深め、思いやりをもつ	5
友達と楽しく生活する中でまじりの大切さに気付く、守ろうとする	5
共同の道具や用具を大切にし、皆で使う	3
高齢者をはじめ地域の人々などの自分の生活に関係の深いいろいろな人に親しみをもつ	3

ドリームカップでは、年間を通してグループ活動に取り組んだ。活動前にはグループごとに話し合う場を設け、自分たちで役割分担を考えながらそれぞれの意見や思いを友だちに伝える姿が見られた。友だちの考えにも身を傾け協力して活動を進める中で関わりを深めながら共通の目標・目的に向かって取り組む姿が育ってきた。また、切磋琢磨する中で友だちの性格や考え方への理解を深め互いを認め合いながら協力して活動に取り組む姿もみられた。

3歳以上の園児

幼保連携型認定子ども園教育・保育要領に基づいた下記のこどもたちの姿になることを見据えて 創意工夫した働きかけができたか？

- 5: たいへんよくできた
- 4: よくできた
- 3: できた
- 2: ややできなかった
- 1: できなかった

ほんび

(3) 身近な環境との関わりに関する領域【環境】	結果	観察項目の内、代表的な事柄についての具体的なエピソード等
自然に触れて生活し、その大きさ、美しさ、不思議などに気付く	3	四季の移り変わりを感じながら利根川コースへの散歩に出かけ同じ場所でも季節によって異なる風景に気づき、感じたことを言葉にする姿が見られた。季節によっては、丈の高い草むらをかき分けて進む中、自然に親しみながら達成感に味わうことが出来た。また、普段よりも長い距離のコースの中で周囲の風景に興味を持ち、見つけたことを共有したり、信号機の数と数えたりするなど主体的に環境に関わる姿が見られた。
生活の中で、様々な物に触れ、その性質や仕組みに興味や関心をもつ	3	
季節により自然や人間の生活に変化があることに気付く	3	
自然などの身近な事象に関心をもち、取り入れて遊ぶ	4	
身近な動植物に関心をもって探し、生命の尊さに気付き、いたわったり、大切にしたりする	4	
日常生活の中で、我が国や地域社会における様々な文化や伝統に関心をもつ	3	
身近な物を大切にする	3	
身近な物の道具に興味をもって関わり、自分なりに比べたり、関連付けたりしながら考えたり、試したりして工夫して遊ぶ	3	
日常生活の中で数量や図形などに関心をもつ	4	
日常生活の中で簡単な探偵や文字などに関心をもつ	4	
生活に関係の深い情報や施設などに関心や関心をもつ	3	
とねの会子ども園内外の行事において園風に楽しむ	3	

(4) 言葉の運用に関する領域【言葉】	結果	観察項目の内、代表的な事柄についての具体的なエピソード等
保育活動等や友達との言葉や話に興味や関心をもち、関心をもって聞いたり、話したりする	5	当番活動等でクラスの友だちの前で立つ経験を通して場面に応じた話し方の違いを意識する姿が見られる 夢ラボ活動では、初めて接する大人に対しての話し方について考える時間を設け、相手に応じた言葉の使い方や伝え方を意識しながら丁寧に伝えようとする姿が育ってきた。
したり、見たり、聞いたり、感じたり、考えたりなどしたことを自分なりに言葉で表現する	4	
したいこと、してほしいことを言葉で表現したり、分からないことを尋ねたりする	4	
人の話を注意して聞き、相手に分かるように話す	4	
生活の中で必要な言葉が分かり、使う	4	
関心をもつて言葉の表現をする	3	
生活の中で言葉の楽しさや美しさに気付く	3	
いろいろな体験を通じてイメージや言葉を豊かにする	4	

(5) 感性と表現に関する領域【表現】	結果	観察項目の内、代表的な事柄についての具体的なエピソード等
生活の中で様々な音、形、色、手触り、動きなどに気付いたり、感じたりするなど楽しむ	4	マーキングでは、初めて触れる楽器に興味を持ち、音リズムに親しみながら友だちと合わせて表現することを楽しめた。 キャンプで見た屋外プロジェクションマッピングに興味を持って感動しその気持ちを言葉や表情で表現したり、友だちと共有する姿が見られた。
生活の中で美しいものや心を動かす出来事や出来事、イメージを豊かにする	4	
様々な出来事の中で、感動したことを伝え合う楽しさを感じる	4	
感じたこと、考えたことなどを音や動きなどで表現したり、自由に表現したり、ついたりなどする	4	
いろいろな素材に楽しみ、工夫して遊ぶ	5	
音楽に楽しみ、歌を歌ったり、簡単なリズム楽器を使ったりなど楽しむ	4	
かいたり、ついたりすることを楽しみ、遊びに使ったり、飾ったりなどする	4	
自分のイメージを動きや言葉などで表現したり、演じて遊んだりするなどの楽しさを感じる	3	

幼保連携型認定こども園教育・保育要領に基づいた下記のこどもたちの姿になることを見据えて 創意工夫した働きかけができたか？

- 5：たいへんよくできた
- 4：よくできた
- 3：できた
- 2：ややできなかった
- 1：できなかった

めだか

55点

左記項目の内、代表的な事例についての具体的なエピソード等

(1) 心身の健康に関する領域【健康】

保育教諭等や友達と触れ合い、安定感をもって行動する	5
いろいろな遊びの中で十分に体を動かす	5
風などで戸外で遊ぶ	5
様々な活動に楽しみ、楽しんで取り組む	4
保育教諭等や友達と食べることを楽しみ、食べ物への興味や関心をもつ	4
健康な生活のリズムを身に付ける	3
身の回りを清潔にし、衣類の着脱、食事、排泄などの生活に必要な活動を自分でする	4
とねの会こども園における生活の仕方を知り、自分たちで生活の場を整えながら見通しをもって行動する	3
自分の健康に関心をもち、病気の予防などに必要な活動を自分で行う	4
危険な場所、危険な遊び方、災害時などの行動の仕方が分かり、安全に気を付けて行動する	5

天気の良い日は、戸外へ出て、"だるまさんがころんだ"や、ししおどし、中当てゲーム、ドッジボールなど、ルールのある遊びで鬼ごっこなど、身体を動かす遊びを積極的に楽しんだ。活発になる一方、興奮し、けがの危険がある場面もあったため、環境構成や、注意喚起を適切に行なった。年長への期待から、自分達で、遊びを工夫する姿も多く、活発に動くことが出来た。

(2) 人との関わりに関する領域【人間関係】

保育教諭等や友達と共に過ごすことの意味を味わう	5
自分で考え、自分で行動する	4
自分でできることは自分でする	5
いろいろな遊びを楽しみながら物事をやり遂げようとする気持ちをもつ	4
友達と積極的に関わりながら喜びや楽しみを共感し合う	5
自分の思ったことを相手に伝え、相手の思っていることに気付く	5
友達のように気付き、一緒に活動する楽しさを楽しむ	5
友達と楽しく活動する中で、共通の目的を見だし、工夫したり、協力したりなどする	4
よいことや悪いことがあることに気付き、考えながら行動する	4
友達との関わりを深め、思いやりをもつ	5
友達と楽しく生活する中でまよりの大切さに気付き、守ろうとする	3
共同の道具や用具を大切にし、使う	4
高齢者をはじめ地域の人々などの自分の生活に関係の深いいろいろな人に親しみをもつ	3

友だちとの関わりも深まり、約束を守り、遊ぶ姿がみられた。又、自己主張もしつ、相手の気持ちにも気付くようになってきた。トラブルになった際は、保育教諭から仲立ちとなり、言葉で、お互いの気持ちを伝え合う大切さを伝えた。自分の思いが通らない場面でも、相手の意見を受け入れたり、仲直りしたりしようとする姿もみられた。運動会では、みんなで、バレーンに取り組み、どうすればもっとふくらむかなど、意見を話し合い、工夫したり、工夫できる様子もみられた。りたんに合わせて、1つの作品を作り上げる楽しさを学んだ。

3歳以上の児童

幼保連携型認定こども園教育・保育要領に基づいた下記のこどもたちの姿になることを見据えて 創意工夫した働きかけができたか？

5：たいへんよくできた
4：よくできた
3：できた
2：ややできなかった
1：できなかった

めだか

【3】身近な環境との関わりに関する領域「環境」

自然に触れて生活し、その大きさ、美しさ、不思議さなどに気付く	3
生活の中で、様々な物に触れ、その性質や仕組みに興味や関心をもつ	3
季節により自然や人間の生活に変化のあることに気付く	4
自然などの身近な事象に関心をもち、取り入れて遊ぶ	4
身近な動植物に親しみをもって探し、生命の尊さに気付く、いたわったり、大切にしたりする	4
日常生活の中で、我が国や地域社会における様々な文化や伝統に親しむ	3
身近な物を大切に使う	4
身近な物や遊具に興味をもって関わり、自分なりに比べたり、関連付けたりしながら考えたり、試したりして工夫して遊ぶ	4
日常生活の中で数量や図形などに関心をもつ	3
日常生活の中で簡単な図形や文字などに関心をもつ	4
生活に関係の深い情報や施設などに興味や関心をもつ	3
とねの会こども園内外の行事において関係に親しむ	3

自然に角虫に触れて生活する中で、ヒトバトリ・何バトリ・ゴウバトリの疑問を持つことや不思議さやヒトバトリの気が付く興味や関心や広がり。また、身近な草花や虫などを見つけた遊びの中で、命の大切さや生き物の対する優しさやヒトバトリの気が付くことなどで。様々な環境を通して、数字や文字などにも興味を持つことが増え、自分なりにヒトバトリを讀んだり、書いてみる姿も増えている。

【4】言葉の獲得に関する領域「言葉」

保育教諭等や友達との言葉や話しに興味や関心をもち、親しみをもって聞いたり、話したりする	5
したり、見たり、聞いたり、感じたり、考えたりなどしたことを自分なりに言葉で表現する	4
したいこと、してほしいことを言葉で表現したり、分からないことを尋ねたりする	4
人の話を注意して聞き、相手に分かるように話す	3
生活の中で必要な言葉が分かり、使う	4
親しみをもって言葉の挨拶をする	5
生活の中で言葉の楽しさや美しさに気付く	4
いろいろな体験を通じてイメージや言葉を使う	4

保育教諭やヒトバトリの関わりの中で言葉で伝える大切さを知り、自分の思いを言葉に伝えて相手に伝える姿が増えた。また、やりとりの中で教え合ったりサポートするよう関わりも多くなった。中には、自分の言葉で相手に伝えることが難しい子もいるので、個々に寄り添い、何を伝えたいか考えたり言葉で伝えられるよう支援している。

【5】感情と表現に関する領域「表現」

生活の中で様々な音、形、色、手触り、動きなどに気付いたり、感じたりするなどして楽しむ	5
生活の中で美しいものや心を動かす出来事に触れ、イメージを豊かにする	4
様々な出来事の中で、感動したことを伝え合う楽しさを味わう	4
感じたこと、考えたことなどを音や動きなどで表現したり、自由に歌ったり、つくったりなどする	4
いろいろな素材に親しみ、工夫して遊ぶ	3
音楽に親しみ、歌を歌ったり、簡単なリズム楽器を使ったりなど楽しむを味わう	5
かいたり、つくったりすることを楽しむ、遊びに使ったり、飾ったりなどする	4
自分のイメージを動きや言葉などで表現したり、演じて遊んだりするなどの楽しさを味わう	3

製作活動では、絵の具やマーカーペン、ハサミ等の様々な道具を用いて、季節の製作物を作ることを楽しむことができました。説明を聞いて手順を見て作るという段階から、説明を聞いて自分で色を決めたり、置き方を考えたりする等、一人ひとりの表現の幅が広がるように活動を進めることができました。日々の保育の中で、子どもたちのリクエストを聞いて季節の歌を歌ったり、音楽に合わせて身体を動かしたりすることで、伸び伸びと一人ひとりの表現で音楽に親しみ、楽しむことができました。

楽しむことができました。

幼保連携型認定こども園教育・保育要領に基づいた下記のこどもたちの姿になることを見据えて 創意工夫した働きかけができたか？

- 5：たいへんよくできた
- 4：よくできた
- 3：できた
- 2：ややできなかった
- 1：できなかった

ひばり

※記項目の内、代表的な事例についての具体的なエピソード等

(1) 心身の健康に関する領域【健康】

保育教諭等や友達と触れ合い、安定感をもって行動する	5	基本的には生活習慣が身に付き、手洗いの際は掲示物の見ながらしっかりと洗えるようになった。乾燥する
いろいろな遊びの中で十分に体を動かす	5	時季はうがいを意識し取り組むことができた。
遠くで戸外で遊ぶ	5	夏場はしっかりと水分補給を行ない、子どもたち自身で気温が下がってきたから飲む量が減った。又、衣服の調節も自分で考えたから肌はいい、着替えることができた。
様々な活動に楽しみ、楽しんで取り組む	5	戸外へ出ると友だちと誘い合い、構想は遊びの設定(警察官、おに、おばけ等)としてのびのびと体を動かして遊んだ。
保育教諭等や友達と食べることを楽しみ、食べ物への興味や関心をもつ	4	大型遊具では登り降り降りにあたる時に、必要は体の重さや考え、見つけながら取り組んでいく。
健康な生活のリズムを身に付ける	4	構想は食生活重視に取り組み、食事に興味をもち、おいしくと五感を満たすことができた。昔手は食料は
身の回りを清潔にし、衣類の着脱、食事、排泄などの生活に必要な活動を自分でする	3	一口ずつ、減らしながら食べてみる、失敗を喜びを感じることができた。
とねの会こども園における生活の仕方を知り、自分たちで生活の場を整えながら見過しをもって行動する	4	体のしなやかさを学び、バウンスの良い食事を通して健康に過ごせることを学んだ。
自分の健康に関心をもち、病気の予防などに必要な活動を自分で行う	4	避難訓練では、サイレンが聞こえたら放送に耳をこらえ、避難の行動を考えたように声かけにこたえて、地震は火災は火の巻き止まりの間に取るのがよい。
危険な場所、危険な遊び、災害時などの行動の仕方が分かり、安全に気を付けて行動する	3	

(2) 人との関わりに関する領域【人間関係】

保育教諭等や友達と共に過ごすことの喜びを味わう	5	友だちと遊びを共有していく中で、「○○しめ」「○○だね」と言葉で伝えながら遊びを設定し、展開していかか育ってきた。
自分で考え、自分で行動する	4	リレーや中当て、ドッジボールを取り入れていく中で、勝ち負けがわかり、ボールをキャッチしてリレーして、ボールを投げるという動作が身に付いてきた。又、異年齢児とも交流し、ボールに当たると痛いという遊びが始まると楽しいと思えるようになった。
いろいろな遊びを楽しみながら物事をやり遂げようとする気持ちをもつ	4	個別に支援が必要は友だちに対し、気に入っている玩具があることを理解して玩具を片付ける際は残しにおいてあげたり、必要のない物は片付けの手伝いをしてくる姿に成長した。
友達と積極的に関わりながら喜びや楽しみを共感し合う	5	散歩に出かけるときは、地域の方に進んで挨拶したり何をしているのか聞いてみる姿にほめて。夏には近所の方にザリガニを譲ってもらい、喜んだ。
自分の思ったことを相手に伝え、相手の思っていることに気付く	3	友だちの名前を呼び合ったり簡単なルールのある遊びを誘って楽しめるようになった。又、じょうずな子どもたちと一緒に遊ぶ機会を、ゲームの順番を決めて進められるようになった。
友達のように気付き、一緒に活動する楽しさ味わう	4	泣いている友だちを見かけたら「大丈夫」「どうしたの？」と声をかけられる。又、泣いている意図を聞き出すと友だちの気持ちを代弁している姿を見かけるようになり成長を感じる。
友達と楽しく活動する中で、共通の目的を見だし、工夫したり、協力したりなどする	4	
よいことや悪いことがあることに気付き、考えながら行動する	3	
友達との関わりを深め、思いやりをもつ	4	
友達と楽しく生活する中でまじりの大切さに気付き、守ろうとする	4	
共同の道具や用具を大切に、皆で使う	4	
高齢者をはじめ地域の人々などの自分の生活に関係の深いいろいろな人に親しみをもつ	5	

3歳以上の園児

幼保連携型認定こども園教育・保育要領に基づいた下記のこどもたちの姿になることを見据えて 創意工夫した働きかけができたか？

- 5: たいへんよくできた
- 4: よくできた
- 3: できた
- 2: ややできなかった
- 1: できなかった

ひばり

左記項目の内、代表的な事例についての具体的なエピソード等

(3) 身近な環境との関わりに関する領域【環境】

自然に触れて生活し、その大きさ、美しさ、不思議さなどに気付く	4	持ち物の始末や衣類の着脱など、保育教諭と一糸着に行うことでやり方や自分の場所が少しずつわかり、自分でやろうとする姿が見られるようになった。子どもたちの「やってみたい」という気持ちや意欲を大切にし、個人差に配慮しながら、自分でできたという喜びを感じられるよう援助を行った。なるべく戸外や散歩にかけ、遊びに自然物を取り入れたり、のびのびと遊ぶ中で自己表現力が育まれ、友だちや保育教諭との関係も温かい雰囲気となり、信頼関係を深めることができた。近所の方から大きなザリガニをいただき、育ていくことで命の大切さや、生物の特徴を理解し、関わる姿が見られた。又、命の終わりを理解する学びの場にもなった。(涙を流すもいた)
生活の中で、様々な物に触れ、その性質や仕組みに興味や関心をもつ	4	
季節により自然や人間の生活に変化のあることに気付く	4	
自然などの身近な事象に関心をもち、取り入れて遊ぶ	4	
身近な動植物に触れしめをもって探し、生命の尊さに気付く、いたわったり、大切にしたりする	3	
日常生活の中で、我が国や地域社会における様々な文化や伝統に関心をもつ	3	
身近な物を大切にする	3	
身近な物や遊具に興味をもって関わり、自分なりに比べたり、関連付けたりしながら考えたり、試したりして工夫して遊ぶ	3	
日常生活の中で数量や図形などに関心をもつ	4	
日常生活の中で簡単な図や文字などに関心をもつ	3	
生活に関係の深い情報や施設などに興味や関心をもつ	3	
とねの会こども園内外の行事において関係に楽しむ	3	

(4) 言葉の獲得に関する領域【言葉】

保育教諭等や友達との言葉や話に興味や関心をもち、聴きしめをもって聞いたり、話したりする	5	前半は、「貸して」「もう少し行って」といふ言葉が足りずにトラブルに発展することも多々見受けられたが、日々の成長によって遊びに必要な言葉を理解し、使うことによりトラブルも減っていった。言葉数が増えることによりコミュニケーション力も増し、自分に自信を持つことができていた。自分の思いや欲求を自分の言葉で発信できよう言葉で伝える場面を意図的に作り、先回りを控えた。子どもたちの興味に合わせて絵本やおはなしなど選ぶことで集約も増し、言葉や会話の面白さを学んだ様子。
したり、見たり、聞いたり、感じたり、考えたりなどしたことを自分なりに言葉で表現する	4	
したいこと、してほしいことを言葉で表現したり、分からないことを尋ねたりする	4	
人の話を注意して聞き、相手に分かるように話す	4	
生活の中で必要な言葉が分かり、使う	4	
聴しめをもって言葉の探求をする	5	
生活の中で言葉の楽しさや美しさに気付く	4	
いろいろな体験を通じてイメージや言葉を豊かにする	4	

→ 劇あそびもそれ以来が工夫しながらの発表となった。

(5) 感情と表現に関する領域【表現】

生活の中で様々な音、形、色、手触り、動きなどに気付いたり、感じたりするなどして楽しむ	4	朝の会や空いている時間に季節の歌に触れたり、振りを入れてことと歌詞を理解しながら歌えるようになった。子どもたちも繰り返し歌うことで覚え、元気よく歌うことができた。体を動かすことが好きで音楽を流すと自由に体を動かしたり、覚えている曲を踊ったりする姿が見られた。運動会でも子どもたちに合った曲を選ぶことで楽しみながら行えるようにした。また、遊戯を通して、友だちと協力して行うことや達成感を味わうことができた。
生活の中で美しいものや心を動かす出来事に触れ、イメージを豊かにする	3	
様々な出来事の中で、感じたことを伝え合う楽しさを味わう	4	
感じたこと、考えたことなどを音や動きなどで表現したり、自由にいかたり、つくったりなどする	5	
いろいろな素材に触れしめ、工夫して遊ぶ	3	
音楽に聴しめ、歌を歌ったり、簡単なリズム楽器を使ったりなどする楽しさを味わう	5	
いかたり、つくったりすることを楽しみ、遊びに使ったり、飾ったりなどする	5	
自分のイメージを動きや言葉などで表現したり、演じて遊んだりするなどの楽しさを味わう	5	

幼保連携型認定こども園教育・保育要領に基づいた下記のこどもたちの姿になることを見据えて 創意工夫した働きかけができたか？

- 5：たいへんよくできた
- 4：よくできた
- 3：できた
- 2：ややできなかった
- 1：できなかった

うさぎ

結果

左記項目内、代表的な事例についての具体的なエピソード等

満1歳以上満3歳未満の園児

(1) 心身の健康に関する領域「健康」	
感情豊かな受容の下で、生理的・心理的欲求を満たし、心地よく生活をする安定感をもって生活をする	5
食事や午睡、遊びと休息など、とねの会こども園における生活のリズムが形成される	5
走る、跳ぶ、登る、押す、引っ張るなど全身を使う遊びを楽しむ	4
様々な食品や調理形態に慣れ、ゆったりとした雰囲気の中で食事や間食を楽しむ	4
身の回りを清潔に保つ心地よさを感じ、その習慣が少しずつ身に付く	5
まわりの人の助けを借りながら、衣類の着脱を自分ですようとする	5
便器での排泄に慣れ、自分で排泄ができるようになる	5

日々の生活の積み重ねにより、苦手な様子だった「園服のボタンも出来るように」、達成感や成功体験を味わうことができていた。また、そのような経験をくり返し、生活リズムが整い、習慣化していった。運動遊びも楽しみ、のりのフタを開けたりする力が自然に身に付いていったと感じる。オムツからパンツに移行する子も多く、漏らすこともあったが、徐々に尿意に気づき、自分で進んで排泄に行く姿が見られるようになっていった。

(2) 人との関わりに関する領域「人間関係」	
まわりの人との安定した関係の中で、共に過ごす心地よさを感じる	5
保育教諭等の受容的・応答的な関わりの中で、欲求を適切に満たし、安定感をもって過ごす	5
身の回りに様々な人がいることに気づき、徐々に他の園児と関わりをもって遊ぶ	4
保育教諭等の仲立ちにより、他の園児との関わり方を少しずつ身に付ける	4
とねの会こども園の生活の仕方に慣れ、きまりがあることや、その大切さに気付く	4
遊びや生活の中で、自分の身近な人の存在に気づき、親しみの気持ちを表す年長児や保育教諭等の真似をしたり、ごっこ遊びを楽しんだりする	4

生活や遊びの中で友だちと関わることの楽しさや喜びを味わいながら、す「すことか」できていた。また、相手の気持ちを考えるということも少しずつできるようになり、自分なりに考えて関わる姿があった。遊びや生活の中での約束事を共に確認していたこともあり、約束事を自分たちで考え、意識しながら、す「すことか」できた。また、友だち同士で教えあう姿も見られた。

(3) 身近な環境との関わりに関する領域「環境」	
安全で活動しやすい環境での探索活動等を通して、見る、聞く、触れる、嗅ぐ、味わうなどの感覚の働きを豊かにする	4
玩具、絵本、遊具などに興味をもち、それらを使った遊びを楽しむ	4
身の回りの物に触れる中で、形、色、大きさ、量などの物の性質や仕組みに気付く	3
自分の物と人の物の区別や、場所的感覚など、環境を捉える感覚が育つ	4
身近な生き物に気づき、親しみをもつ	4
近隣の生活や季節の行事などに興味や関心をもつ	4

戶外遊びでの探索や食育活動等を通して様々な物に関心を示し、観察に手を取ることで「感覚や呼吸、五感を使って楽しむこと」できていた。また、保育教諭の「違いや感じ」のことを問いかけることにより同じ種類でもよく観察すると様々な「違い」があることに気づき、言葉で表現する姿も見られていた。

幼保連携型認定こども園教育・保育要領に基づいた下記のこどもたちの姿になることを見据えて 創意工夫した働きかけができたか？

- 5：たいへんよくできた
- 4：よくできた
- 3：できた
- 2：ややできなかった
- 1：できなかった

うさぎ

結果

左記項目の内、代表的な事例についての具体的なエピソード等

(4) 言葉の獲得に関する領域「言葉」

保育教諭等の応答的な関わりや話し掛けにより、自ら言葉を使おうとする	4	・一人一人と目を合わせ、毎日繰り返し挨拶「さあさあ」と、挨拶「さあさあ」ことが習慣となり、言葉のやり取りが出来るようになった。 ・遊びの中などで応答的な関わりを、自分の気持ちや生活の中の出来事などを自分の言葉で伝えようとする姿もみられる。 ・困った時や嫌な気持ちになった時には寄り添いながらも、その思いが伝えられるよう促すことで徐々に言葉を表せるようになった。 ・読み聞かせの時間を多く設けることで物語に親しみ、(保育教諭)の模倣をすることで「楽しい」と言えるようになった。
生活に必要な簡単な言葉に気づき、聞き分ける	4	
親しみをもって日常の挨拶に応じる	4	
絵本や紙芝居を楽しみ、簡単な言葉を繰り返したり、模倣をしたりして遊ぶ	5	
保育教諭等とごっこ遊びをする中で、言葉のやり取りを楽しむ	4	
保育教諭等を仲立ちとして、遊びや生活の中で友達との言葉のやり取りを楽しむ	5	
保育教諭等や友達の言葉や話に興味や関心をもって、聞いたり、話したりする	3	

(5) 感性と表現に関する領域「表現」

水、砂、土、紙、粘土など様々な素材に触れて楽しむ	4	発達や興味に応じた製作活動を取り入れ、様々な技法に触れる中で興味を引き出し、自分なりのイメージを持って作りあげることが出来るよう工夫した。 シール貼りや砂遊び粘土遊びを多く取り入れた事で手先、指先を細かく使う力が育った。 日常の中で歌や手遊びを楽しむことでリズム感や音感が養われた。 リトミック遊びを年間を通して取り入れたことで音楽に親しみながら全身で表現する楽しさを味わうことができた。
音楽、リズムやそれに合わせた体の動きを楽しむ	4	
生活の中で様々な音、形、色、手触り、動き、味、香りなどに気付いたり、感じたりして楽しむ	4	
歌を歌ったり、簡単な手遊びや全身を使う遊びを楽しんだりする	4	
保育教諭等からの話や、遊びや生活の中での出来事を通してイメージを豊かにする	3	
遊びや生活の中で、興味のあることや経験したことなどを自分なりに表現する	3	

幼保連携型認定こども園教育・保育要領に基づいた下記のこどもたちの姿になることを見据えて 創意工夫した働きかけができたか？

- 5：たいへんよくできた
- 4：よくできた
- 3：できた
- 2：ややできなかった
- 1：できなかった

ちどり

結果 左記項目の内、代表的な事例についての具体的なエピソード等

満1歳以上の満3歳未満の園児

(1) 心身の健康に関する領域「健康」	
愛情豊かな受容の下で、生理的・心理的欲求を満たし、心地よく生活をする安定感をもって生活をする	4 担当保育教諭とのストレッチや日々の挨拶を通して、生理的・心理的欲求を
食事や午睡、遊びと休息など、とねの会こども園における生活のリズムが形成される	5 素直に表現するこどもが出来るようにこどもの不機嫌に合わせて挨拶方法を伝え、安心して過
走る、跳ぶ、登る、押す、引っ張るなど全身を使う遊びを楽しむ	4 こどもが得意な遊びを促すように、少々の自分で行うことに自信を見られ、喜んでいく
様々な食品や調理形態に慣れ、ゆったりとした雰囲気の中で食事や間食を楽しむ	4 こどもが園にいる子へ良い刺激となり、手洗いや衣服の着用等進んで行うこと
身の回りを清潔に保つ心地よさを感じ、その習慣が少しずつ身に付く	4 が出来るように後半になると、尿意を知らせられる子も、長い時間尿を溜められる
まわりの人の助けを借りながら、衣服の着脱を自分でしようとする	4 自ら増えたいと認め、個別に合わせたトレーニングを行うように、お兄さん、
便器での排泄に慣れ、自分で排泄ができるようになる	3 お姉さん、お兄さんにもお話をし、自ら増えたいと認め、前向きな声掛けをして進んでいくことが出来る。

(2) 人との関わりに関する領域「人間関係」	
まわりの人との安定した関係の中で、共に過ごす心地よさを感じる	5 保育教諭の応答的な関わりにより、子どもたちの不安が減少し、安心して
保育教諭等の受容的・応答的な関わりの中で、欲求を適切に満たし、安定感をもって過ごす	5 過激な反応がなくなる。また、友だちとも興味を持ち、保育教諭の仲立ち
身の回りに様々な人がいることに気付き、徐々に他の園児と関わりをもって遊ぶ	5 になり、一緒に遊んだり、友だちの真似をして楽しんで遊ぶようになる。
保育教諭等の仲立ちにより、他の園児との関わり方を少しずつ身に付ける	4 友だちとの関わり方を少しずつ身に付けている。
とねの会こども園の生活の仕方に慣れ、きまりがあることや、その大切さに気付く	4
遊びや生活の中で、自分の身近な人の存在に気付き、親しみの気持ちを表す年長児や保育教諭等の真似をしたり、ごっこ遊びを楽しむ	4

(3) 身近な環境との関わりに関する領域「環境」	
安全で活動しやすい環境での探索活動等を通して、見る、聞く、触れる、嗅ぐ、味わうなどの感覚の働きを豊かにする	4 運動会では、子ども達の興味や好きなものを見取り、だるまさんの絵本を題材
玩具、絵本、遊具などに興味をもち、それらを使った遊びを楽しむ	5 にして色々な遊具を取り入れた。普段から見ていた絵本で大女子だった為、
身の回りの物に触れる中で、形、色、大きさ、量などの物の性質や仕組みに気付く	3 興味を持つのも早く、当日親子で楽しみながら行っていた。また、素材遊びは、
自分の物と人の物の区別や、場所的感覚など、環境を捉える感覚が育つ	4 ちびり組から取り入れ、1年通して遊び込んだ。遊ぶ回数が増す毎に遊ぶ
身近な生き物に気付き、親しみをもち	4 内容が変化してきたり、友だちとの関わりが広がって、充実度が上がっていた。
近隣の生活や季節の行事などに興味や関心をもつ	4 1学期は、場所が変わったり、普段とは違う事を取り組むことと、泣いてしまったり、

戸惑い、泣いていたり、子ども、保育教諭の前向きな言葉掛けや関わり、場慣れを通して切り替えができるようになってきた。大きく成長を感じる部分が多かった。

幼保連携型認定こども園教育・保育要領に基づいた下記のこどもたちの姿になることを見据えて 創意工夫した働きかけができたか？

- 5：たいへんよくできた
- 4：よくできた
- 3：できた
- 2：ややできなかった
- 1：できなかった

ちどい

結果 左記項目内、代表的な事柄についての具体的なエピソード等

(4) 言葉の獲得に関する領域「言葉」

保育教諭等の応答的な関わりや話し掛けにより、自ら言葉を使おうとする	5	自分の思いと言葉で相手に伝えるようにする姿が多く見られ、簡単な言葉だけでなく、身振りや表情も交えながら、自分なりに気持や要求を表現している。また日々の遊びの中で保育教諭や友だちの言葉をよく聞き、それを真似しながら、模倣遊びへと発展させている。手にごっこ遊びでは、閉じの言葉や経馬使いの場面を再現しようとし、やり取りを楽しみながら言葉の使い方を広げている様子が見られる。この閉じの期間の中で、言葉を使って相手と気持ちや共有する喜びや楽しさを感じている姿が見られる。
生活に必要な簡単な言葉に気付き、聞き分ける	5	
親しみをもって日常の挨拶に応じる	4	
絵本や紙芝居を楽しみ、簡単な言葉を繰り返したり、模倣をしたりして遊ぶ	5	
保育教諭等とごっこ遊びをする中で、言葉のやり取りを楽しむ	5	
保育教諭等を仲立ちとして、遊びや生活の中で友達との言葉のやり取りを楽しむ	5	
保育教諭等や友達の話に興味や関心をもって、聞いたり、話したりする	4	

(5) 感性と表現に関する領域「表現」

水、砂、土、紙、粘土など様々な素材に触れて楽しむ	5	1年間を通して、体を動かすことを子どもが多く、体操やリズムでは音楽やリズムに合わせて楽しんで参加する姿が見られた。慎重な子ども、繰り返し経験することで安心感を得て自発的に取り組むようになった。素材遊びでは、水や紙、布空箱など様々な素材に触れ、音や感触を楽しむ感覚的な遊びから、見立てやごっこ遊びへと発展していった。センサーマットや水溜り遊び、風船遊びなどでは、感触や動きの違いに気付き、興味を広げる姿が見られた。楽器遊びでは自由に音を鳴らすことから始まり、保育教諭の関わりを通してリズムを意識した表現へと繋がっていた。製作活動では指先の発達と共にシール貼りやたこぼし描きが発展し、自分なりに形やイメージを持って表現する姿が見られるようになった。様々な活動を通して、子どもたちは興味や経験したことを子どもたちなりに表現する力を育てているように感じた。一方で、遊びを持続・発展させるための環境構成や保育教諭の関わりについては、今後の課題としていきたい。
音楽、リズムやそれに合わせた体の動きを楽しむ	4	
生活の中で様々な音、形、色、手触り、動き、味、香りなどに気付いたり、感じたりして楽しむ	4	
歌を歌ったり、簡単な手遊びや全身を使う遊びを楽しんだりする	4	
保育教諭等からの話や、遊びや生活の中での出来事を通してイメージを豊かにする	3	
遊びや生活の中で、興味のあることや経験したことなどを自分なりに表現する	4	

幼保連携型認定こども園教育・保育要領に基づいた下記の子どもの姿になることを見据えて 創意工夫した働きかけができたか？

- 5：たいへんよくできた
- 4：よくできた
- 3：できた
- 2：ややできなかった
- 1：できなかった

ひよこ

		結果	左記項目の内、代表的な事例についての具体的なエピソード等
乳 児 期 の 園 児	(1) 身体的発達に関する視点「健やかに伸び伸びと育つ」		
	愛情豊かな受容の下で、生理的・心理的欲求を満たし、心地よく生活をする	5	◦ 手洗いや歯磨きの欲求を受け止め、気持ちを寄り添った関わりを心掛けていくことで信頼関係を築き、安心して過ごせるようになってきたように感じた。
	一人一人の発育に応じて、はう、立つ、歩くなど、十分に体を動かす	5	◦ 個々の発達に合わせたマットの配置やトビ等、広く安全な環境を用意することで様々な身体刺激を楽しんでいた。また、子ども達のやりたいを尊重し、果敢と意欲を持って積極的に活動に参加できるように保育を行った。
	個人差に応じて授乳を行い、離乳を進めていく中で、様々な食品に少しずつ慣れ、食べることを楽しむ	4	
	一人一人の生活のリズムに応じて、安全な環境の下で十分に午睡をする	5	
	おむつ交換や衣服の着脱などを通じて、清潔になることの心地よさを感じる	4	◦ 午睡時は、個人に合わせた対応を心掛り、音楽を流し落ち着いた雰囲気の中、十分な休養が取れるように配慮した。
	(2) 社会的発達に関する視点「身近な人と気持ちが通じ合う」		
	園児からの働き掛けを踏まえた、応答的な触れ合いや言葉掛けによって、欲求が満たされ、安定感をもって過ごす	5	◦ 慣れない環境で不安を感じている姿に気づき、特定の保育教諭がゆとりと穏やかな語りかけを行い、一対一の関わりを大切にしている時には「さびしいね」「あそびに車があるね」などと気持ちを寄り添いながら視点を愛する工夫をしたことで次第に保育教諭を信頼して自ら歩み寄りやたたり、ひざの上で寄り添って過ごす時間が増えていった。
	体の動きや表情、発声、なん語等を優しく受け止めてもらい、やり取りを楽しむ	4	
	遊びや生活の中で、自分の身近な人の存在に気づき、親しみの気持ちを表す	5	◦ 子どもの反応が良い絵本を繰り返し読み返す時、安心して楽しめる環境づくりに努めた。繰り返しの中で特定の場面と一緒に笑い合ったり、絵に写っていたりする応答的な関わりを大切にすることで子どもが指差しや喃語で応えてくれるようになり、やり取りを楽しむ姿へとつながった。
	語り掛けや歌い掛け、発声やなん語等への応答を通じて、言葉の理解や発語の意欲が育つ	4	
	温かく、受容的な関わりを通じて、自分を肯定する気持ちが芽生える	3	
	(3) 精神的発達に関する視点「身近なものと関わり感性が育つ」		
	身近な生活用品、玩具や絵本などが用意された中で、身の回りのものに対する興味や好奇心をもつ	5	◦ 手遊びや歌が好きで保育教諭の動きを真似して楽しむ姿が見られた。絵本の読み聞かせも生活の流れに毎日取り入れる事で子どもたちも興味を示し、簡単な言葉を覚えた。指差しや喃語を踏まえて思い思いに楽しんでいった。
	遊びや生活の中で様々なものに触れ、音、形、色、手触りなどに気づき、感覚の働きを豊かにする	5	
一緒に様々な色彩や形のものや絵本などを見る	5	◦ 遊びを通して様々な素材や食料(新聞紙、緩衝材、スポンジ、片栗粉、高野豆腐、はちみつ、スライムなど)を使った感覚遊びをたくさん行い、手触り、匂い、色などの違いを感じながら五感を刺激し、好奇心や探究心を育てていった。	
玩具や身の回りのものを、つまむ、つかむ、たたく、引っ張るなど、手や指を使って遊ぶ	4		
あやし遊びに機嫌よく応じたり、歌やリズムに合わせて手足や体を動かして楽しんだりする	5		

幼保連携型認定こども園教育・保育要領に基づいた下記の項目について
創意工夫をもって実施することができたか？

- 5：たいへんよくできた
- 4：よくできた
- 3：できた
- 2：ややできなかった
- 1：できなかった

食育

		結果	左記項目の内、代表的な事柄についての具体的なエピソード等
食育	園児が生活と遊びの中で意欲をもって食に関わる体験を積み重ね食を楽しむ食事を楽しみ合う園児に成長していくことを期待して食育に取り組むことができた	5	<p>フックキックや食育を通して、食材に角虫れることができた。特に、食育イベントでは、焼き芋や豚汁作りを行い、全学年が農園の野菜を収穫し、ちぎるや切る、包むなどの行程を体験した。目の前で給食ができるのを楽しみながら食育に取り組めた。</p> <p>また、保育士と協力しながら、フックキックや箸指導、体のひみつなどの食育活動を行えた。</p> <p>離乳食やアレルギー対応を保育士、看護師と連携し、対応が必要な園児には一人ひとりに対応し、安全に給食提供を行えた。</p>
	食事の提供を含む食育の計画を作成し、指導計画に位置付けるとともに、その評価及び改善に努められた	4	
	園児が自らの感覚や体験を通して自然の恵みとしての食や食の循環・環境への意識、調理する人への感謝の気持ちや育つように園児と調理員等との関わりや調理室など食に関する環境に配慮できた	5	
	多様な関係者との連携や協働の下で、食に関する取組が進められた	5	
	一人一人の対応が適切に行えた	5	
	食物アレルギー対応は、安全、安心な生活を送ることができるよう、完全除去を基本として園全体で組織的に行えた	5	
	園児一人一人の心身の状態等に応じ、保護者との相談や医師等の指示や協力の元に適切に対応できた	4	
	アナフィラキシーショックへの対応について、エビパンの使用法を含めて理解できる取組が行えた	4	
	食物アレルギー-症状を誘発するリスクの高い食物を使わない等様々な配慮や工夫を行えた	4	
食を通じた保護者への支援が行えた	5		

幼保連携型認定こども園教育・保育要領に基づいた下記の項目について
創意工夫をもって実施することができたか？

5：たいへんよくできた 4：よくできた
3：できた 2：ややできなかった 1：できなかった

健康

	結果	左記項目内、代表的な事例についての具体的なエピソード等
健康状態や発育及び発達の状態の把握		
各園児の機嫌、食飲、顔色、活動性等を観察し、平常とは異なった状態かどうか注意を払っている	4	<ul style="list-style-type: none"> ・冬場は、湿度が著しく低下してしまい乾燥しがちであった。感染症の流行を最小限にとどめることができるよう、2方向での換気を実施していた。 ・感染症流行時期には職員へ疾患の情報共有を行っている。また、年に1度吐物処理や掃除の仕方など感染対策を含む研修を実施している。 ・職員が感染経源とならぬよう、体調不良の時は、欠席・マスクの着用や早退をしている。 ・食中毒の発生に留意しマニュアルを活用し対応している。また、こども達も清潔が保つことができるよう都度声掛けを行っているが、従順は困難。食中毒の発生は無。 ・園外活動では、あらかじめ散歩コースのハザードマップを職員の気づきから作成している。また事故防止マニュアルも常に職員が確認することができるようHP上にアップされている。 ・ヒヤリハットによる分析を行い、事故予防策の活用につながるよう今後も継続していく。 ・重大事故の発生はなかったが、その場面に応じた対応ができるよう緊急時マニュアルの確認ができるようHPへのアップ、年に一度訓練を行っている。 ・設備点検は法規通り実施、備品や遊具点検を行い、安全環境の整備を心がけているが、保管が厳かになりがちなので注意を図っていく。 ・避難訓練を実施し、職員からの質問や意見を検討し、必要に応じて改善を行っている。 ・保護者と協力し、子どもの引き渡しを円滑に行うことができるよう引き渡し訓練を実施している。
各園児の成育歴や罹患歴等に関する情報を保護者の理解を得て把握している（情報の取り扱いには秘密保持義務を果たすよう留意している）	5	
心身の機能の発達については、安易に予測や判断をしないよう努め（様々な要因の影響があるため）、丁寧な観察等を通して把握している	5	
園児の心身の状態について、日々、必要に応じて保護者に報告し、留意事項なども必要に応じて助言している	4	
健康増進		
保健計画を策定し、実施している	5	
健康診断を実施している	5	
疫病等への対応		
在園時に体調不良や傷害が発生した場合、保護者に園児の状況等を連絡し、適切な対応をとっている	4	
高熱、脱水症、呼吸困難、けいれんといった症状の急変や事故などの場合には救急対応として救急車の出動を要請するなど状況に応じて迅速に対応している	5	
空気感染する感染症（水痘、麻疹、結核）が疑われる場合には、他の園児たちと離し、換気を行い、保護者に遠くし受診をすすめる	4	
接触感染対策として適切な手洗いをし、正しい手洗いの方法を身につけるようにしている	3	
人の血液などを介して感染する感染症の予防として血液や体液（唾液、汗水、尿、糞便等）などに触れる時には必ず使い捨て手袋を着用し手袋を外した後は流水と石けんで手洗いをしている	3	
血液等が触れた場所は消毒している	5	
予防接種の勧奨として、保健だより等にて情報提供を行っている	5	
園児一人一人の予防接種歴や感染症の罹患歴を把握し、保護者等との情報共有に努めている	4	
感染症の疑いのある園児に対し、他の園児との接触がないよう配慮する等、適切な処置、対応をしている	4	
学校伝染病として定められた感染症に罹患した園児が登園を再開する場合、学校保健安全法に基づく出席停止期間を守っている	5	
園児に薬を与える場合、医師の診断及び指示による薬に取直し、医師名、種類、方法を具体的に記載した処方依頼票を添付してもらっている	5	
保護者から預かった薬については、施設管理する等、他園児が誤って内服しないようにしている	5	
AED講習を実施するなどし、救急蘇生法等にて職員全員が理解できるようにしている	5	
乳児は必ずおむつで保護するなど、SIDSの危険因子が無いようにしている	4	

幼保連携型認定こども園教育・保育要領に基づいた下記の項目について
創意工夫をもって実施することができたか？

5：たいへんよくできた 4：よくできた
3：できた 2：ややできなかった 1：できなかった

安全

左記項目の内、代表的な事例についての具体的なエピソード等

	結果
環境及び衛生管理	
室内の温度等の調整、換気、明るさ、音の大きさ等に配慮して、心地よく過ごせる環境を整えている	3
消毒薬などは園児の手の届かない場所保管、管理している	4
職員が感染症及び衛生管理に関する知識と適切な対応方法を日頃から身につけられるようにしている	4
嘔吐物や糞便等の処理に当たっては、使い捨てのマスクやエプロン、手袋等の使用や手洗いの徹底など感染防止のための処理を徹底している	5
調乳や園児の食事介助の際には、手洗いや備品の消毒を行う等、衛生管理を十分徹底している	5
全職員は自己の健康管理に留意し、感染源が疑われる場合には、自らが感染源にならないよう、適切に対応している	4
食中毒の予防に向けて、日常的に、園児が清潔を保つための生活習慣を身に付けられるよう取り組んでいる	4
食中毒が発生した場合に備えて、食中毒発生に関する対応マニュアルを作成し、全職員へ周知している	5
事故防止	
日常の安全管理として遊具等の安全点検表を作成して定期的に点検している	5
園外での活動に際して、工事箇所、交通量、その他の危険性について事前に把握し、安全な活動にできるよう努めている	5
事故防止のため、日常どのような点に留意すべきかについて事故防止マニュアルを作成し、周知を図っている	4
日常的な事故予防として、ヒヤリ・ハットした出来事を記録、分析し、事故予防対策に活用している	4
睡眠、プール活動、水遊び、食事等の場面（重大事故が発生しやすいもの）について、その場面に応じた適切な対応を行っている	5
重大事故や不審者の侵入等の危機管理について、緊急時の対応マニュアルを作成し実践的な訓練等を通じて、全職員が把握できるように努めている	5
災害への備え	
危険等発生時対応要領に基づき、災害等の発生に備えるとともに、防火設備、避難経路等の安全性が確保されるよう、定期的に安全点検を行った	5
備品、遊具等の配置、保管を適切に行い、日頃から、安全環境の整備に努められた	4
危険等発生時対応要領に緊急時の対応の具体的な内容、手順、職員役割分担、避難訓練計画等の事項を盛り込み必要に応じて改訂している	4
定期的に避難訓練等を実施している	5
避難訓練について、地域の関係機関や保護者との連携の下に行うなど工夫している	5
災害発生時の保護者等への連絡、子どもの引き渡しを円滑に行えるよう、連絡体制や各方法を決めている	5
地域の関係機関との連携を図り、必要な協力が得られるよう努めている	5

・こどもの健康に関わる個人情報に関しては、職員と必要に応じて共有させていただき、流出には十分注意を払っている。また、丁寧な観察を心がけ職員の意見も交えながら健康面・発達面ともに把握に努め、保護者へこどもの様子を必要に応じて伝え助言を行っている。

・保健計画の策定、それに伴い健診の実施を行っている。

・緊急を要する場合の症状に関しては、救急車の依頼を行い搬送迄スムーズに進むことができるよう職員で協力している。

・空気感染になる水痘などは、去年度も発生し報告を受けた段階で保護者へ周知の連絡を取っている。また、発疹がある場合は気付いた段階で受診の検討を依頼しているが、完全別室での対応はむずかしい

・正しい手洗い方法が身に着くよう、指導や声掛けを行っているが雑になることもあるため、習慣化できるよう促していく必要がある。

・活動中の鼻出血や損傷部位からの出血では突然のことも多く、手袋を着用しての対応が困難なことが多い。また、汚染部位に関しては、マニュアルに準じて消毒の実施を行っている。

・予防接種や感染症の情報も保健だよりにより随時掲載している。また、感染症流行の兆しがあるクラスで同症状がある場合、対応が可能な限り別室対応するようにしている。さらに保護者へ病態や登園の目安も全体メールにて周知している（出席停止期間のずれがある場合は、個別で連絡し確認を取らせていただいている）。

・SIDS予防のため、あおむけ寝の防止を行っているがこどもの寝返りや習慣によりうつぶせ寝になっていることもあり、5分ごとのチェックの時に仰臥位へなるよう介助している。

提出期限：令和8年4月30日

自己評価

【食育・健康・安全・子育て支援】

<令和7年度> とねの会こども園

幼保連携型認定こども園教育・保育要領に基づいた下記の項目について
創意工夫をもって実施することができたか？

- 5：たいへんよくできた
- 4：よくできた
- 3：できた
- 2：ややできなかった
- 1：できなかった

子育て支援

		結果	左記項目の内、代表的な事例についての具体的なエピソード等
子育て支援	保護者からの様々な相談を受けるにあたっては、プライバシーの保護や守秘義務を守って適切な態度で行えた	4	・2才児 言葉が遅く、他児との関わりも難しい場面が多く、カーテンは他の人の予約が入っている日を選んで利用していた。お母さんが悩み疲れている様子も見られたので、来園時はゆっくりと話を聞くように心がけていた。後に、お母さんから「一番しんどい時に話を聞いてもらえる場所があり助けられた」と伝えて下さった。
	保護者への助言の際には、保護者自身が理解、納得し、行動に移してもらえるように努められた	5	
	適切な体制（内部体制・外部との協力：その状況に応じて）により、子育て支援が行えた	4	・2才児 発語が少なく、活動にも「ほかほか参加」できず、突発的に動きも多く、お母さんが怒ってしまうことで落ちこんでしまう、どうしたらよいか分からずと悩んでいた。子どもとは丁寧に関わり、言葉がけを意識し、経験を増やせるような活動に一緒にとりくみよう心がけた。
	子どもの最善の利益（各状況において具体的なもの）を捉えた支援ができた	3	お母さんから「自分にも子どもにも寄り添ってもらえて、気が付かぬよう成長も喜んでくれて、そのままと受けとめてもらったことが嬉しかった」と言葉を頂いた。
	教育及び保育における活動に対する保護者の積極的な参加を促すことができた	4	その他 様々な悩みを抱えたお母さんと向き合う中で、やはりお母さんの安心が子どもの安心、気持ちの安定にあり、成長の基と子どもと強く感じた。
	各家庭や園児、保護者等の状況に応じ、個別の支援が行えるよう努めることができた	4	支援は毎日通りで行っているが、1回1回の関わり大切だと意識して過ごすよう心がけてきた。お母さんの今の悩みに共感し、寄り添う中で、
	地域における子育て家庭の保護者等に対する支援が適切に実施できた	3	お母さん自身が安心に子どもと向き合うことで、言葉が増えたり、表情や声かけにほころびや落ちる様子で、それぞれの成長を見ることができた。そのことに子育て支援の役割を感じ、実践し、お母さんに伝わることの大切さと感じた一年であった。